

上下水道局の次期経営ビジョン骨子案に係る市民意見募集結果  
御意見の要旨と御意見に対する本市の考え方

【 総括表（御意見の内訳） 】 応募総数：229通 御意見数：514件

区分	反映 (A)	同趣旨 (B)	参考 (C)	合計
1 骨子案全体，背景・課題	16	55	13	84
2 基本理念と取組の構成	6	57	8	71
3 視点 京の水をみらいへつなぐ	56	48	50	154
4 視点 京の水でころろをはぐくむ	16	27	34	77
5 視点 京の水をささえつづける	34	35	26	95
6 その他	0	20	13	33
合計	128	242	144	514

(参考) 御意見を頂いた方の属性

< 年齢 >

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	回答なし	計
0通	22通	40通	32通	25通	35通	10通	65通	229通
0%	10%	17%	14%	11%	15%	5%	28%	100%

< 性別 >

男性	女性	回答なし	計
125通	38通	66通	229通
55%	17%	28%	100%

< お住まい >

市内在住	市通勤等	その他	回答なし	計
107通	24通	30通	68通	229通
47%	10%	13%	30%	100%

< 回答方法 >

郵送	F A X	持参	電子メール	送信フォーム	計
25通	7通	62通	5通	130通	229通
11%	3%	27%	2%	57%	100%

(A) 次期経営ビジョンに反映するもの

1 骨子案全体，背景・課題	
御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの結果を示すと分かりやすいと思う。</li></ul>	現在の「京（みやこ）の水ビジョン」に基づき進めてきた各取組については、次期経営ビジョンにおいて、取組内容や数値目標の達成状況をお示しします。
<ul style="list-style-type: none"><li>・10年間の計画と一括りにするのではなく、いつまでにやるのかをもっと明確かつ詳細に、また各項目については何らかの数値目標が必要のように感じた。このビジョンを、将来どのように点検・評価されるのか、疑問に思う。</li><li>・「今後の経営環境は大変厳しい見通し」と記載しているが、実態をもっと詳しく教えて欲しい。</li><li>・将来の不安材料があれば更に提示して欲しい。</li><li>・なぜ、この工事が必要なのか、住民がもっと認知できるようにして欲しい。</li><li>・コストの数値など、足元の状況について把握できているのか。</li><li>・これをやったらこんな形になるというものが、もう少し見るといいと思う。</li><li>・各取組について水道と下水道の関係が分かりにくい。</li><li>・京都市の計画との関係性が分かりづらい。</li><li>・個別の取組は理解できたが、それで10年後どのようになるのか、しっかりとビジョンでは示して欲しい。</li><li>・もう少し市民にも伝わるような工夫をして欲しい。</li></ul>	次期経営ビジョンでは、取組内容の詳細や数値目標をお示するとともに、前後期各5箇年の実施計画として策定する中期経営プランにおいては、年次計画をお示しします。また、点検・評価につきましては、これまでどおり、年度ごとに京都市水道事業・公共下水道事業経営評価を実施し、事業の点検・評価を実施します。
<ul style="list-style-type: none"><li>・視点 「京の水をみらいへつなぐ」と視点 「京の水をささえつづける」の違いが分かりにくいので、項目間の関係図式をつけてみるとよいと思う。</li><li>・視点 と視点 の差異が、文字だけ見ると分かりにくい。</li></ul>	骨子案でお示した3つの視点について、それぞれの関係図を作成し、お示しします。

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>率など、市民には分かりにくい数字が多く、それで安心してよいのかがよく分からない。単純に、市民が安心していているかどうか、頼れるかどうかを聞いてみて、それをもっと高めることを目標にしても良いのではないか。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョン及び前後期各5箇年の実施計画として策定する中期経営プランで掲げる目標は、市民の皆さまから見た事業の効果を指標として盛り込み、お示しします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>山間地域の水道事業について、給水量の比率的にはわずかなものと思われるが、これらの地域の次期経営ビジョンが、具体的には全く記載されていないように感じる。</li> <li>「市内北部地域の下水道整備完了」と書いてあるが、久多や花脊、京北などの下水道整備が完了しているとは思えない。ここでいう「市内北部地域の下水道整備」とは何を指すのか、私たちにも分かりやすく記載して欲しい。</li> <li>国の新水道ビジョンの重点的な実現方策にある「小規模水道対策」について、京都市において特に示す事項があれば記載してはどうか。</li> </ul>	<p>市内山間地域には15の地域水道(簡易水道14,飲料水供給施設1)がありましたが、平成28年度末までに再整備事業を完了しました。</p> <p>また、市内北部地域の下水道計画区域は、大原、静原、鞍馬及び高雄の4地域であり、平成26年度に下水道整備を完了しました。</p> <p>これら山間地域の上下水道事業については、平成29年度から、本市の水道事業及び公共下水道事業と統合し、一体的に事業を進めています。次期経営ビジョンでは、この点について御理解いただけるように記載します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>模式図や写真等があればもっと分かりやすい。</li> </ul>	<p>図や写真等も活用しながら、より詳細な説明等を記載します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>形式はユニバーサルデザイン、カラーバリアフリーでお願いしたい。</li> </ul>	<p>冊子の作成に当たっては、「京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針」に基づき、多くの方にお手に取っていただけるデザインとします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>次期ビジョンの名称は、現在の「京の水ビジョン」の進化をイメージできるようにして欲しい。</li> </ul>	<p>頂いた御意見も踏まえ、次期経営ビジョンの名称を検討します。</p>

## 2 基本理念と取組の構成

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・基本理念や取組の構成のうち、「目指す将来像」が大切だと思う。まずは10年間でこれらの内容がどの程度具体化するのか、それをできるだけ分かりやすく数字も用いて表すことで、市民にも分かりやすい将来像になると思う。</li><li>・色々な課題（方針）を列挙されているが、これらに優先順位はないのか。</li><li>・水道や下水道の本来の役割を全うするため、優先順位を付けて、理念どおりの事業を展開して欲しい。</li></ul>	<p>次期経営ビジョン及び前後期各5箇年の実施計画として策定する中期経営プランでは、より詳細に取組内容を記載するとともに、年次計画及び数値目標を記載します。また、「目指す将来像」については、分かりやすい図で表現し、10年後の目指す姿を多くの方に御理解いただけるよう努めます。</p>

3 視点 京の水をみらいへつなぐ	
御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域水道の統合により水源が多数に渡る。水量的には少ないが「琵琶湖から」と特定するのはどうか。</li> </ul>	<p>平成 29 年 4 月に山間地域の水道事業を統合したことに伴い、本市水道事業の水源は琵琶湖のみではなくなったため、より適切な表現に改めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化する施設の更新費，設備の効率化，人口減少による水需要の減少などのバランスをどのように取るのかを分かり易く表現する必要がある。</li> <li>・施設や管路の耐震化，危機管理対策について，具体的な取組を示して欲しい。</li> <li>・上下水道施設は全国的にも老朽化が進み，現状を維持し続けることは困難であると聞く。老朽化対策を進め，生活に支障が生じないように，取組を進めていただきたい。</li> <li>・次世代にも残せる耐震化や施設更新を進めて欲しい。</li> <li>・浄水場などの耐震化はどうか。</li> <li>・老朽化や災害対応について重点が置かれているように感じた。</li> <li>・水道・下水道ともに老朽化対策，地震対策を最も優先して欲しい。いつ起こるか分からない大規模災害への備えのハード，ソフト面，また危機管理能力は重要なポイントなので，具体的な体制作りをお願いしたい。</li> <li>・古いものをしっかり直して欲しい。</li> <li>・太秦庁舎以外は震災時大丈夫なのか。</li> </ul>	<p>今後の経営見通しについてより詳細に記載するとともに，前後期各 5 箇年の実施計画として策定する中期経営プランにおいて，財政計画をお示しします。</p> <p>老朽化した管路や施設の更新と耐震化は大きな課題の一つと考えており，施設マネジメントによる長寿命化や事業費の平準化を図ることで，事業費を抑えつつ，効果的・効率的に管路・施設や庁舎の更新や耐震化を推進します。また，危機管理対策については，ハード面はもとより，計画やマニュアルなどソフト面の取組も充実させます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全ての上下水道管の耐震化は計画にあるのか。</li><li>・ 耐震化の割合などが書かれているが、具体的な場所などは示されているのか。重点対象となる管路や施設、優先順位などの説明が必要ではないか。</li><li>・ 水道と下水道で耐震化の取組に係る記載が異なるが、両者の方針の違いを説明する必要があるのではないか。</li><li>・ 配水管の更新について、重点対象となる管路、優先順位とかの説明が必要では。</li><li>・ 老朽化した配水管、給水管の更新に合わせて耐震化を推進して欲しい。</li></ul>	<p>老朽化した管路や施設の更新と耐震化は大きな課題の一つと考えております。水道管路・下水道管路はそれぞれ役割や性質が異なりますので、次期経営ビジョンでは、それぞれの役割や性質を踏まえた事業の方向性や目標をお示しします。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現行ビジョンにおける大きな経営上のコンセプトとして、「施設規模の適正化」が謳われ、実現されているが、次期案では、事業者の必死の覚悟が見えない。</li></ul>	<p>次期経営ビジョンにおいて、水道事業では、浄水場の廃止等による「施設規模の適正化」を行う予定はありませんが、将来の施設規模を見据えた施設の改築更新・耐震化を実施します。また、配水管の更新に際しては、将来の水需要を見据え、使用水量に応じた口径で更新（ダウンサイジング）することで「配水管口径の最適化」を図ります。</p> <p>公共下水道事業では、鳥羽水環境保全センター吉祥院支所に流入する汚水を鳥羽水環境保全センターに段階的に切り替え、将来的に吉祥院支所の汚水処理機能を縮小させることで、より効率的な施設体系としていきます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防保全，事後保全という考えは，水道，下水道共通の考え方であり，先に説明すべき。</li> <li>・ 浄水場の「予防保全」はしないのか(管路のみ打ち出すのは疑問)。</li> <li>・ 「予防保全」は水道にも言えることなので，表現を上下水道共通のものにするべきと思う。</li> <li>・ 下水道事業では「予防保全」型維持管理はしないのか。</li> <li>・ 今後とも勉強・研究を実施し，広範囲な意見が得られるような取組を望む。</li> </ul>	<p>予防保全・事後保全の考え方は，水道・下水道に共通するものですので，次期経営ビジョンでは，水道・下水道のそれぞれの特性を踏まえた施設マネジメントの考え方をお示しします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉛管の健康への影響について心配している。公費で取り替えを進めて欲しい。</li> </ul>	<p>鉛製給水管（鉛管）を使用されている場合でも，通常の使用状態であれば，現行の水質基準に適合しており安全性に問題はありますが，漏水防止等の観点も含めて，本市の負担により鉛製給水管の解消に努めてきました。今後も配水管等の布設替工事や漏水修繕工事などの機会を捉えた取替工事の実施や，宅地内の助成金制度の継続など，引き続き鉛製給水管の解消に努めていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「京(みやこ)のおそうじプロジェクト」に取り組まれているが，重要な維持管理作業であり，今後も取り組むべきと考えているので，表記すべき。</li> </ul>	<p>「京(みやこ)のおそうじプロジェクト」については，配水管の維持管理の一環として，平成30年度以降も引き続き取り組みます。</p>

(A) 次期経営ビジョンに反映するもの

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>平成 35 年度までに合流式下水道の改善対策とあるが、簡単なことではないと思われる。平成 35 年度まで終わるような規模になっているのか。</li><li>蛇口から直接飲める水道水を守るために、水質管理の徹底や、下流域の人たちにも、おいしい水を今後も飲んでもらうためにも合流式下水道の改善を着実にやって欲しい。</li><li>大きな川の中流域にある大都市の責務として、また大阪湾を少しでもきれいにするためにも、平成 36 年度以降も積極的にやって欲しい。</li></ul>	<p>本市では、公共下水道整備区域の約 40 パーセントが合流式下水道区域となっており、これまでから改善対策を進めてきました。今後も、一時的に雨を貯留する管きよの整備等を進めることで、平成 35 年度には、合流式下水道改善率 100% を達成することを目指しています。</p> <p>また、平成 36 年度以降においても、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として、河川の水環境への負荷低減に努めていく考えです。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>各公園や避難場所にマンホールトイレを整備できないか。</li></ul>	<p>災害用マンホールトイレについては、これまでから、広域避難場所（公園等）や避難所（市立の小中学校等）における整備を進めております。</p> <p>今後も、小中学校をはじめ、市有施設の避難所等を対象として、関係部署と調整しながら整備を継続します。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>周辺都市と協力し、災害時の救援活動の充実を図って欲しい。</li></ul>	<p>現在、大都市間や京都府下の市町と災害時の相互応援の体制を整えています。次期経営ビジョンでは、広域連携に係る取組の一環として、京都府下の市町村間との相互応援の具体的な方法や、大規模な災害時における受援（他の市町村から応援を受けること）のあり方について更なる連携を検討し、救援活動の充実を図ります。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の浸水安全度は、局地的豪雨の時間水量（雨量）にどこまで耐えられるのか。</li> <li>・経営ビジョンに書かれている想定内の大雨の対策と共に想定外の激甚な大雨についても上下水道局として一定の考えを示してはどうか。</li> </ul>	<p>本市では、これまでから浸水対策の取組を進め、5年に一度の大雨に対する雨水整備率は全国トップ水準になっております。次期経営ビジョンでは、10年に1度の大雨に対する整備率（1時間当たり62ミリ）について目標を設定し、雨水幹線の整備等を継続的に進めてきました。また、近年発生している局地的な大雨に対しても、これまでに整備してきた施設が一定の効果を発揮していることから、引き続き、10年に1度の大雨に対応した施設整備を進め、土のう・止水板の設置や防災マップの活用、防災訓練等、自助の取組と併せて、被害を更に軽減することが出来ると考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政が逼迫している状況は分かるが、集中豪雨対策に抜本的な対策をお願いしたい。例えば、大型地下雨水路の設置等。</li> <li>・大雨のニュースが多いので対策して欲しい。</li> <li>・局地的な豪雨対策の重要性が高まっていると思うので、より取り組んで欲しい。</li> <li>・地震対策も大切だが、雨の対策もしっかりお願いしたい。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンにおいても、浸水対策を重要な事業の一つとして位置付け「雨に強いまちづくり」の取組をしっかりと進めていく考えです。</p> <p>主な取組としては、市内中心部の浸水安全度を更に向上させるために、既設の幹線の排水能力を補完する新たな基幹幹線（鳥羽第3導水きよ）を整備するほか、過去に浸水した地域や浸水の危険性が高い地域における雨水幹線等の整備を進めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・IoTとかICTとか記載があるが、水道・下水道で具体的にどのようなことに利用するのか。</li> <li>・AIやICT化を進めて欲しい。</li> <li>・ICTは、水道や下水道でもいろいろ活用できると思うので、最新の技術を取り入れて世界に誇れるような事業を進めて欲しい。</li> </ul>	<p>IoTやAI等のICTを利用することにより、水量、水質、設備状況等、各種データの分析を行い、それらを反映させた効率的な運転管理や維持管理への活用方法について調査・研究を進めます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 広域化へのリーダーシップの発揮，公民連携手法の導入は非常に重要であり，多様な関係者と連携し，積極的に推進して欲しい。</li><li>・ 骨子案 12 ページの方針 の取組 において，何の検討を先導するのか説明不足と感じる。</li><li>・ 広域化への取組が不足しているように感じる。</li><li>・ 全国の指定都市がその地域の中心になって水道・下水道事業を支えていくのは，指定都市の責任でもあると思うし，この関係を市民に知っていただくことは大切なことだと思う。</li><li>・ 京都府内一番の規模，実績を有している強みを利用して，広域化，共同化を考え進めて欲しい。</li><li>・ 民間企業への委託も必要であると思うが，もっと積極的にスピーディーに，京都府，周りの市町村，さらには関西の行政機関と連携提携して広く仕事をすべきではないか。</li><li>・ 自治体の垣根を越えた施設の広域化，スリム化，効率化を進めて欲しい。</li></ul>	<p>京都府下の各市町村においても，本市同様，水需要の減少や施設の老朽化の課題を抱えており，職員の確保や技術の継承についても喫緊の課題となっています。本市としては，京都府内最大の事業体として，京都府と連携を図り，府内の広域化・広域連携に係るリーダーシップを発揮し，検討を先導していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国際貢献，国際協力の説明文が一行で終わっていて少しお粗末な気がする。</li><li>・ 海外他都市との技術交流研修の派遣</li><li>・ 水道や下水道はどこでも求められるものであり，今後の国際化の波に乗り遅れないよう，技術力だけでなく語学力も身につけておくべき。</li><li>・ 世界の水道・下水道の発展に貢献するうえで，職員を現地に派遣して，具体的にどのような活動を想定しているのか記述できないか。</li></ul>	<p>次期経営ビジョンでは，これまでから実施してきた海外からの研修生等の受け入れに加え，海外への職員短期派遣等も検討し，引き続き，本市が培ってきたノウハウや技術力を生かした国際協力を積極的に進めていきます。</p>

## 4 視点 京の水でところをはぐくむ

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近くの営業所がなくなることはサービス低下と判断されることがあるので、お客さまサービスが滞らない旨説明を懇切に行うべきと考える。</li> <li>・ 市民やお客さまとの信頼関係を深めていくに当たり、営業所における「face to face」の対応が求められているように感じる。</li> <li>・ 近所の営業所もなくなってしまい返ってサービスの低下になっていないか。遠くて行きにくくなっている。</li> <li>・ これまで家の近くに営業所があり、水道や下水道のトラブルがあっても安心していられたが、統合でなくなったことで、少し寂しい思いとともに不安を感じている。</li> </ul>	<p>本市では、お客さまに来所していただくなくても、電話やファックス、インターネットによる給水申込受付を導入するなど、お客さまが利用しやすい仕組みづくりを進めるとともに、必要に応じてお客さま宅を訪問してサービスが低下することがないように対応してきました。</p> <p>また、繁忙期には区役所・支所における臨時相談窓口を設置するなど、積極的に出向くサービスを推進・充実させてきました。</p> <p>次期経営ビジョンの中で、営業所については、新たな機能（水道・下水道に係る各種制度・施策を営業所が積極的に推進）や役割（上下水道局の防災・危機管理体制における地域の特性を踏まえた防災拠点）を担う組織として再構築するとともに、インターネットを活用したサービスを充実するなど、お客さまサービスの向上に努めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水等利用専用水道使用者への訪問は、マーケティングリサーチの一環であるとは思われるが、どのように新たなサービスの実現につながるのかが分からない。</li> </ul>	<p>一般のお客さまだけでなく、地下水等利用専用水道使用者等の大口使用者のニーズを把握し、実現できる制度やサービスの検討を進めていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気やガスのように、インターネットでの日常の使用状況の確認や申込・廃止ができるようにしてほしい。</li> </ul>	<p>インターネットを利用した水道使用量等を閲覧できるサービスのほか、各種手続の拡充を、次期経営ビジョンの期間内に開始できるよう検討を進めていきます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に対して、現状の厳しさを分かりやすく説明する工夫が必要だと思う。いつ、何に、どれだけ費用が掛かるのか、分かりやすく説明することで、将来負担に対する理解が深まるのではないか。</li> <li>・現状と将来予想される厳しさをもっとPRし、利用者皆で上下水道事業を支えることが必要との意識の涵養が大切だと思う。</li> <li>・どういった業務内容でどういった人員配置、そこに費やされている人件費など、一般的な市民にも分かりやすい情報開示がなされるべき。</li> <li>・水需要の減少と施設などの老朽化、収入が減る反面、支出が増大する大変厳しい見通しをもっと大きく打ち出してよいと思う。</li> <li>・水需要の減少と管路等の老朽化への対策等についても、市民に積極的に広報することで、取組への理解が深まればよいと思う。</li> </ul>	<p>本市の水道事業・公共下水道事業を取り巻く課題や厳しい経営状況については、次期経営ビジョンのほか、市民しんぶん、ホームページなどの様々な広報媒体や各種イベント、街頭キャンペーン、施設見学会などあらゆる機会を活用し、情報発信と分かりやすい情報開示を積極的に進めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産学公連携による、市民協働の観点」がよく分からない。具体的に表現する必要があるのではないか。</li> </ul>	<p>上下水道局では、これまでから、例えば、「京（みやこ）の水カフェ」での事業運営などにおいて、市内の民間企業や大学と連携した取組を実施してきました。今後も、こうした産学公連携の取組を進めるほか、市民の皆さまの協力の下で推進する広報活動についても検討します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミストシャワーの更なる増設はできないか。</li> <li>・京都駅の駅ミストや二条城境内の「ミスト」のように、観光地にもっとたくさん「ミスト」を増やしたら、観光客が喜ぶのではないか。</li> </ul>	<p>ミスト装置につきましては、頂いた御意見も踏まえ、継続的に取組を進めます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過剰な広報は必要ないのでは。もっと学校教育の分野に力を入れるべきではないか。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、広報の効果を高めるため、対象や媒体、内容を効果的に組み合わせた戦略的な広報活動を進めます。また、具体的な取組の一つとして、次代を担う子ども達とその親を対象とした広報活動の展開を予定しています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下水道資源の有効利用について、記述されている取組に止まらず、新たな技術や事業手法を含め、幅広く調査研究し積極的に推進して欲しい。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、下水汚泥の固形燃料化や消化ガスの活用のほか、新たな下水道資源の有効活用についても調査・研究を重ねます。</p>

## 5 視点 京の水をささえつづける

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型研修施設は市民の利用も可能な のか。可能なら参加したい。</li> <li>・体験型研修施設に関しては、私たち一 般市民に公開されたものでも問題ない はず。できるだけ多くの機会を作り、 もっと多くの市民の目に見える形で事 業運営がなされるべき。</li> </ul>	<p>現在、太秦庁舎の敷地内に建設中の水道 体験型研修施設（水道技術研修施設）に ついては、本市職員の技術研修に止まら ず、近隣事業者からの研修受講者の受入 や、民間事業者の技術者の養成、地域の 消防団や小学校の見学の受入れなど、幅 広く活用を図ることを予定しています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点 「京の水をささえつづける」の 説明が分かりにくい。</li> <li>・事業継続のためには、上下水道局だけ でなく、関係者との連携・きずなが必 要との認識から、視点の中に「…、市 民の皆さま、そして水道・下水道に携 わる事業者の皆様とともに、…」との 文章が入っているが、方針・取組の中 ではそのことが具体的に触れられてい ない。</li> <li>・市内の上下水道業界の健全な育成など は書かれていないが、どのように育成 していくかも記載した方がいいのでは ないか。</li> <li>・水の担い手としては、外郭団体や指定 業者の役割も重要である。また市民に も役割があると思う。みんなで京の水 を守る取組を進めて頂ければと感じ る。</li> <li>・水道と下水道のプロは上下水道局の皆 さんだと思うので、一緒に担うために 市民はどうすればいいのか、何を知れ ばいいのかを教えて欲しい。</li> <li>・私たち市民も自らの安全を守るための 意識をもっと持つ必要があると思うの で、積極的な意識啓発を行ってもらい たい。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、防災・危機管理 における飲料水の備蓄など「自助」の取 組や、市民参加型防災訓練など「共助」 の取組をはじめ、関係団体と連携した技 術力の向上・技術継承の推進等、市民・ 事業者の皆さまとともに水道・下水道を 支え続けるための取組を盛り込みます。 あわせて、市民の皆さまの御理解・御協 力を得ながら事業を進めていけるよう、 水道・下水道を御利用いただく際に知っ ていただきたいことや経営状況に関する 情報などを積極的に発信していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要施策である改築更新や耐震化につ いて、方針毎、取組毎で記述されてい るが、ビジョンでは共通するアセット マネジメントについて説明する必要が あるのではないか。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、アセットマネジ メントについては、水道・下水道それぞ れの特徴を踏まえた施設マネジメントの 考え方を中心にお示しします。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営が厳しいというのは分かるが、どうやって維持していくのか。</li> <li>・ 世代間の負担を公平にすることは重要だと思う。そのため、将来の大規模更新や老朽設備の更新に要する費用が多くなるならば、経営の効率化を行うことを大前提として、水道料金の値上げなど、将来の世代に過大な負担を残さないようにすべきだと思う。</li> <li>・ 一番のお客さまサービスは水道の安定供給と水道料金を値上げしないことだと思う。</li> <li>・ 家族が多く、家計に響くので水道料金を安くして欲しい。</li> <li>・ 現役世代と将来世代の負担を公平にして欲しい。将来、水道料金がかかなり高くなるのであれば、今そこそこ上げておいて欲しい。</li> <li>・ 方向性について理解はできるが、本当に目標を達成するには、料金を上げないといけないのか。</li> <li>・ 上下水道事業を続けていくためには、多額の費用が必要だと思ったが、将来的に水道料金を上げなくては適正に継続できないのであれば、水道料金を上げることも計画（ビジョン）に入れるべき。</li> <li>・ 料金の値上げは、効率の見直し等を行った後、最終かと思っている。</li> <li>・ 民間企業もサービスの拡充に限界がきており、様々な値上げも行われ始めている。公共サービスも、きれいごとだけでなく、あるべきサービス水準の再設定と、応分負担を市民に求めていくことも重要だと感じる。</li> <li>・ 厳しい状況は冊子で理解できたが、料金改定を行うのであれば、十分に経営努力をしていることを示してからにして欲しい。</li> </ul>	<p>使用者の負担増とならないよう長期的な視点に立って、施設の長寿命化や経営の効率化、新たな収入源の確保等を着実に進めます。しかしながら、事業を取り巻く環境は大変厳しい見通しであることから、世代間の公平性に重点を置いた適正な料金・使用料の体系や水準についても検討を進めます。</p>

(A) 次期経営ビジョンに反映するもの

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・「公民連携手法の導入」について、もう少し分かりやすく表現されるとよいと思う。</li></ul>	<p>「公民連携手法」とは、公（行政）と民（民間企業）が連携して事業を進めることを指しており、「民」の有する技術・ノウハウをはじめとした経営資源の活用により、公的な負担を抑制し、事業の効果・効率を高める手法として注目されています。次期経営ビジョンでは、こうした取組についても検討を進めることを分かりやすく表現します。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・大まかな理念や施策について理解できたが、一番の課題である経営面について、まだ充分でない感じを受けた。</li></ul>	<p>次期経営ビジョンにおいて、経営の効率化や財政基盤の強化の方向性をお示しするとともに、具体的な財政計画等については、前後期各5箇年の実施計画として策定する中期経営プランにてお示しします。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・技術継承も必要だが、一番掛かっているのは人件費のはずである。効率を上げる＝人員削減という風な内容がないのはなぜか。料金の値上げは最終手段だと思う。</li><li>・もっと職員数を減らすべきではないか。他都市と比べても多すぎる。</li></ul>	<p>これまでからも業務推進体制の効率化等により、職員定数の削減を進めてきたところであり、次期経営ビジョンにおいても、引き続き、これらの取組を推進します。</p>

## ( B ) 骨子案に記載済み又は趣旨に含まれているもの

1 骨子案全体，背景・課題	
御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道利用が減少する中でも，未来を見据えてしっかりと取り組んでいけることが分かり，安心した。</li> <li>・人口減少を含む経営環境の厳しさを乗り越えるビジョンにして欲しい。</li> <li>・無駄のないように，計画内容の再度の見直しを実施して欲しい。</li> <li>・オール京都市として他分野（道路，河川等）との連携を図ってはどうか。</li> <li>・市民から寄せられた意見を真摯に受け止め，市民の意見を反映した経営ビジョンとなることを望む。</li> <li>・分かりやすい。図表が多く見やすい。</li> <li>・それぞれの方針に対して，複数個の取組が記載されており何を行っているのかが明確に分かる点が良い。</li> <li>・京都市全体としての使命・役割を果たすことができるような取組の方向性が見えるのが良い。</li> <li>・衛生，防災，利用者満足度の向上等，課題は多く，企業努力が必要だと感じた。</li> <li>・骨子案に記載されている内容については，しっかりと実践していただきたい。</li> <li>・目立たない事業だが，地道に着実に進めていただければと思う。</li> <li>・安全安心の京都，観光都市京都，これからは，地震，水害など，天災にも強い京都であって欲しいと思う。</li> <li>・子ども，孫世代が安心して水道を使えるようしっかりと取り組んで欲しい。</li> </ul>	<p>骨子案に対する市民の皆さまの御意見，市会や外部有識者等の御意見を踏まえ，今後も議論を重ね，京都市全体での連携を図りながら，次期経営ビジョンの策定を進めます。</p>

(B) 骨子案に記載済み又は趣旨に含まれているもの

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今までの取組も必要だが、全く新しい取組も必要なので、新しい試みをするのは良い事だと思う。</li><li>・ 技術が発達している現代の水道と下水道のやり方はこれまでとは違うと感じているので、新しいことにも挑戦して欲しい。</li><li>・ 色々な地域で同じような課題があるので、他地域での良い案はすばやく取り入れるなど挑戦を続けて欲しい。</li></ul>	水道・下水道の基本的な役割をしっかりと果たすことはもとより、骨子案の方針「いどむ」でお示ししているように、新技術等の調査・研究をはじめ、新たな取組にも積極的に挑戦します。
<p>・ 視点 「京の水をみらいへつなぐ」と 視点 「京の水をささえつづける」は、特に重要だと思うので、積極的に取組を進めて欲しい。</p>	事業を取り巻く経営環境がますます厳しくなる中でこそ、経営基盤の強化を進めながら、水道・下水道の基本的な役割に特に力を入れ、市民の皆さまの生活を支えるライフラインである水道・下水道を50年後、100年後の未来につないでいける次期経営ビジョンを策定します。

## 2 基本理念と取組の構成

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念は短文で大変分かりやすくてよいと思う。また、構成もスッキリとよくまとめられていると思う。</li> <li>・「京の水」とは、色々な深い意味が込められているのか。</li> <li>・市民の生活に大変重要な命綱である水道・下水道を50年後、100年後の未来にしっかりとつなぎ安全・安心を守るために平成30年度以降の基本理念をしっかりと守って欲しい。</li> <li>・京都の水道・下水道を未来へつないでいく力強い宣言であると思う。</li> <li>・基本理念「京の水からあすをつくる」は秀逸である。水が都市を支え、近未来を作っていくというコンセプトはある種の気概を示していて経営ビジョンの志をよく表している。しかし現行ビジョンに「京の水をあすへつなく」、次期ビジョンの視点に「京の水をみらいへつなく」と似たフレーズが出てくるので分かりにくい。</li> <li>・視点、方針など用語の使用方法は的確で分かりやすいと思う。</li> <li>・上下水道は人間の営みになくはないライフラインであり、「京の水からあすをつくる」というキャッチフレーズは正に言い得て妙である。</li> <li>・新たな基本理念には上下水道局の将来への決意が感じられ、次期ビジョンの具体化を期待する。</li> <li>・水は生きていく中でなくてはならないものなので、これから先50年、100年後も使えるような理念は良いと思う。</li> <li>・次期ビジョンは期間(2027年)が、京都市基本構想(2025年)の期間を超えることから、今後の京都市の施策を先導することを期待する。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、「京(みやこ)の水ビジョン」の基本理念である「京の水をあすへつなく」の考え方をしっかりと受け継ぎつつ、市民の皆さまとともに、将来像の実現を目指す私たち上下水道局の決意を込めて、「京の水からあすをつくる」を基本理念としています。この基本理念のもと、水道・下水道を、50年後、100年後の将来にわたって守り続けられるような次期経営ビジョンを策定します。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・それぞれの視点，方針に見合う重要な取組についてよく網羅されていると思う。</li><li>・取組の構成が3つの視点，9つの方針，そして30の取組によってできており，分かりやすいと思う。特に9つの方針は簡潔に説明されており，よくできていると思う。</li><li>・将来を見据えての取組となっているのは良かった。10年のビジョンとなっているので，1年経つ都度，振り返りを通して目標達成できるように職員一同力を合わせて頑張ってもらいたい。</li><li>・なかなか知ることのできない内容であり，問題は多いと考えられるが，更に検討，研究して欲しい。</li><li>・構成については，本来の上下水道事業はもちろんのこと，大規模災害への備えや，地球環境保全の視点が入っており，上下水道局が幅広く貢献する意気込みが感じられてよい。</li><li>・前回の施策体系と比べて，スッキリしたと思う。</li><li>・平仮名で分かりやすい視点，方針が示されていて分かりやすい。</li></ul>	<p>次期経営ビジョンは，より多くの市民・事業者の皆さまに御理解いただけるよう，できる限りシンプルな構成を心掛け，具体的な取組についても，分かりやすい表現に努めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・100年後まで安全で安心なおいしい水を提供して欲しい。</li><li>・水道は日々の生活の根幹を支えている部分である。安心，安全，安定に供給されることが，本当に大切だと思う。「京の水をみらいへつなぐ」の部分をしっかり頑張ってもらいたいと思う。</li><li>・水道や下水道はライフラインなので，これからもずっと安心，安全に使われ続けることが，とても重要だと思う。しっかりと計画を立てて，事業を進めるべきだと思う。</li></ul>	<p>安全・安心な水道水をつくり，下水をきれいにして川へ返し，地震や大雨からまちとくらしを守るなど，水道・下水道の基本的な役割について，しっかりと責任を果たすことに重点を置いた次期経営ビジョンを策定します。</p>

## 3 視点 京の水をみらいへつなく

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代に即した，水道・下水道の「あるべき形」があると思うので，既定の概念に囚われず，新しい発想（新技術を取り入れるなど）で京の水をみらいへつないでいていただきたい。</li> <li>・最新技術の導入，外部の研究機関との共同研究等，積極的な技術革新を期待する。</li> <li>・新しい技術を研究開発してコストダウンに努める必要を感じる。</li> </ul>	<p>水道・下水道の基本的な役割を果たすためにも，方針「いどむ」で掲げているように，ICT等の未来へつながる技術の調査・研究を進めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖の水がこれからもおいしい飲料水であるために，滋賀県と連携して進めていただきたい。</li> </ul>	<p>滋賀県とは，これまでからも定期的な情報交換等を行うことで連携しており，今後も引き続き連携を図っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨時になると水道水が臭いので何とかして欲しい。</li> <li>・琵琶湖の水質の影響が心配である。</li> <li>・受水槽の問題かもしれないが，もう少しおいしい水を提供して欲しい。</li> </ul>	<p>現在，琵琶湖の原水水質については24時間連続監視を行っており，今後も継続していきます。</p> <p>また，日々変化する原水水質にも対応できるように，高機能な粉末活性炭を使用するなど浄水処理機能の充実を図り，異臭（かび臭）のない水道水の供給を行っていきます。</p> <p>なお，受水槽からも安全・安心な水道水を供給できるよう，次期経営ビジョンでは，これまでに引き続き，小規模な貯水槽水道の設置者に対して，適正な維持管理に関する啓発・助言を実施していきます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配水管の更新について、ライフサイクルコストを重視しているという事に非常に関心を持った。実際にどういった所に工夫されているのか具体的に示して頂けるとありがたい。</li> <li>・老朽化は進んでいることは理解するが、配水管の更新・耐震化の推進で更新率1.5%がどういった意味をもつ数字であるか分からない。</li> </ul>	<p>老朽化した配水管の更新に当たっては、一律、法定耐用年数の40年で更新するのではなく、管の材質ごとに実耐用年数を設定し、その期間内に更新することに努めています。また、耐震性・耐久性に優れた高機能ダクタイル鋳鉄管や水道配水用ポリエチレン管等を使用し、ライフサイクルコストの縮減を図っています。</p> <p>また、配水管の更新率1.5%とは、市内に布設されている配水管を1年間に1.5%分(約60km)更新するということを示しています。本市としては、漏水や断水発生のリスクを最小限に抑えつつ、配水管の実耐用年数や更新に係る事業費の平準化等を勘案すると、当面、更新率1.5%程度が妥当であると考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未水洗家屋の解消に向けた取組は何か行っていないのか。</li> <li>・京の水をみらいへつなぐために、下水道接続率を100%にするという意志表示がない。</li> </ul>	<p>今後も、未水洗家屋を各戸訪問し、個々の状況に応じたきめ細やかな勧奨を粘り強く実施するとともに、水洗便所の設置に係る助成金制度を活用しながら、未水洗家屋の早期解消に努めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市では水環境保全センターで高度処理をしているとホームページ等で紹介されているが、この水を積極的に利用されたらどうか。</li> </ul>	<p>本市では、これまでからも、各水環境保全センター内の機械用水や鳥羽水環境保全センター横のせせらぎ用水、夏場の「打ち水」等に高度処理水を活用しており、今後もこうした取組を継続して進めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市の下水処理の更なる高度化を強く要望する。</li> <li>・下流域を踏まえた水環境の保全はとても大事だと思う。</li> <li>・下水処理は、これからも力を入れていただきたい。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンにおいても、下水の高度処理や合流式下水道の改善を進め、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として、下流域も含めた水環境の保全を進めていきます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも経営の効率化が進められると思うが、直営部門での危機管理に伴う人員配置をしっかりと行い、組織力を充実して頂きたい。</li> </ul>	<p>骨子案の方針「まもる」に記載しているように、市内南北2エリアを所管する事業・防災拠点の整備により、機動的な危機管理体制の構築を進めていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番注目しているのは防災や危機管理に関する内容である。パンフレットに書いてあるように、本当の意味での防災には、自助や共助が必須だと思う。そのためには、防災に携わる行政機関から、どのような自助、共助が効果的かを発信するべきだと思う。</li> <li>・自然災害、その他災害についての対処の方向性についても、ある程度記述していただけたらと思う。</li> <li>・京都市は、災害時に他都市への給水車派遣を積極的に実施されるなどの実績をお持ちだと思う。もっと実績をPRしてはどうか。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンの防災・危機管理の取組の一つとして、実践的な防災訓練の実施や、仮設給水栓の配備状況等の積極的な広報、飲料水の備蓄啓発など、市民の防災意識を向上する取組を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水タンクの設置啓発をして欲しい。</li> </ul>	<p>今後も、市民・事業者の皆さまに対して、雨水貯留施設等の設置目的や意義を周知するとともに、設置に係る助成金制度を活用した施設等の普及を促進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番心配なのは災害。地震等で使えなくなることは仕方ないが、できるだけ丈夫で、早く復旧できるような水道であって欲しい。</li> <li>・災害対策にもっと重点を置くべきではないか。</li> <li>・防災や安全、安心の取組に力を入れるのがよいと思う。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、管路や施設の耐震化に加え、災害発生時に着実に飲料水を確保するための備蓄の推進や災害用マンホールトイレの整備等を継続的に進め、災害に強い水道・下水道を構築していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITを導入するのはいいが、費用対効果を勘案して欲しい。</li> </ul>	<p>ICTをはじめとした新技術の導入については、費用対効果の検証を含めた調査・研究を重ねたうえで、導入します。</p>

#### 4 視点 京の水でところをはぐくむ

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・市民の声を受け取りやすいサービスを行えば、ニーズにより対応できると思う。</li><li>・人口が減っていくこれからのことを考えると、若い世代の意見を取り入れることを忘れないで欲しい。</li></ul>	大口使用者への訪問や、「水に関する意識調査」、イベント等におけるアンケートを通じて、お客さまニーズをこれまで以上に的確かつ詳細に把握・分析し、新たなサービスの実現につなげます。
<ul style="list-style-type: none"><li>・キャラクターにお金を使うより、上下水の整備充実にお金を使って欲しい。</li></ul>	「水に関する意識調査」の結果から広報活動への認知度が高い方ほど、事業への満足度が高いという傾向が明らかとなっています。水道事業・公共下水道事業への理解を深めていただき、事業への満足度向上を図るきっかけとして広報活動も推進していきます。
<ul style="list-style-type: none"><li>・上下水道を身近に考える機会がないので、もう少し日常生活の中で考えさせるようにしてもらえたら助かる。</li><li>・今後も市民に分かりやすい内容で発信され続けて欲しいと思う。色々な人に伝わるよう頑張ってください。</li><li>・ポスターや市民しんぶんなどで上下水道の仕事を見かけるようになった。</li><li>・水道や下水道は私たちの生活に欠かせないものであるが、濁水や浸水がなければ、なかなか分からない。大切なものであることを、もっともっとPRして、頑張ってください。</li></ul>	これまでから、経営状況や重要な事業については、市民しんぶんなど様々な媒体を活用しながら、「伝える力」を発揮し、情報発信しています。次期経営ビジョンにおいても、市民の皆さまの事業への理解・関心を高め、事業に対する満足度の更なる向上を目指すために、戦略的な広報活動を進めます。

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖疏水等の史跡は、これからもしっかりと未来へ残してもらいたい。</li> <li>・通船事業や京都市の歴史的な資産を活用した取組は、上下水道局だけでなく、観光部門がしっかり取り組む必要がある。</li> <li>・通船事業に期待している。頑張っ欲しい。</li> <li>・京都市の水道事業における取組は、国際観光都市として十分理解できる。</li> <li>・文化の取組は通船以外でも行うべきではないか。</li> <li>・疏水の通船事業と疏水記念館の増客計画はしたほうがいい。</li> <li>・インクラインや蹴上浄水場、さらには関西電力の蹴上発電所など、近代化産業遺産を観光資源として活かし、一体的にPRすべきである。</li> </ul>	<p>次期経営ビジョンでは、「世界の文化首都・京都」として、観光部門などとも連携を図りながら、京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疏水の魅力発信を進め、文化や景観、観光振興に貢献するなど、京都ならではの取組も進めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・京の水でこころをはぐくむという視点はすばらしいと思う。</li> <li>・視点のこころをはぐくむは上下水道局の仕事とどうつながるのか。</li> </ul>	<p>水道・下水道に関する情報を市民の皆さまに分かりやすく伝え、皆さまの声を受け止め、ニーズに対応したサービスを提供し、期待に応え続けることはもとより、京都ならではの「こころの創生」を重視し、文化や景観、そして地球環境に配慮した取組を進めることを通じて“こころをはぐくむ”事業運営に努めます。</p>

(B) 骨子案に記載済み又は趣旨に含まれているもの

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 京都議定書で皆さんに広く知って頂けたエコな生活を持続する取組や活動も、更に広げていけるように発信されていて理解しやすい内容だと思う。</li><li>・ 京都議定書を発効した所なので、バイオガスや下水熱などの再生可能エネルギーの更なる活用を期待する。</li><li>・ 環境にも配慮しながら、使用量も考えなければならないと思うが、頑張っ欲しい。</li><li>・ もっと、環境に配慮した取組を行うべきではないか。</li></ul>	<p>京都議定書誕生の地として、これまでから創エネルギーや、省エネルギーの取組を実践しているところですが、今後も、更なる下水道資源の有効利用を推進するなど、持続可能な低炭素社会の実現に貢献していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 太陽光や水力の発電をしているのはよいが、更に下水ガスを使って発電することはできないのか。大阪市や神戸市はできているので、京都市もできると思う。</li></ul>	<p>本市では、従来から、下水汚泥から消化ガスを生成し、都市ガスの代替燃料として活用しています。</p> <p>発電するためには、新たな設備投資が必要となることから、発生した消化ガスを焼却炉の燃料等として直接利用することが、本市においては有効な利用方法となっております。</p>

5 視点 京の水をささえつづける	
御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道事業のみに焦点を当ててない柔軟性はすごい。ただ、全取組がふわふわしたものにならないかが心配である。</li> </ul>	<p>水道事業・公共下水道事業の基本的な役割をしっかりと果たし、今後の事業を取り巻く課題へ対応できる次期経営ビジョンを策定します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民にとっては、水道は安全ということが普通であるという意識がある。高い技術を持った職員が退職することにより、安全性が低下してしまうのではないかという不安があるので、技術の継承や職員の養成に力を入れて欲しい。</li> <li>・体験型研修施設が、平成 30 年 2 月に完成されると聞き大変喜んでいる。長年培ってきた技術力を次世代に継承し、危機管理能力向上に努めて頂きたいと思う。</li> <li>・これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、「京の水の担い手を育て、きずなを強めます」の思いで頑張ってもらいたい。</li> <li>・技術の継承は座学と OJT だけでは、時間的にも限界があるので、「水道技術研修施設」は是非とも必要であった施設だと考える。如何に有効に利用するかが大事なので、その点を踏まえた取組をお願いしたい。</li> <li>・今後 10 年で、4 割もの技術者の方が退職されることには、驚いた。体験型研修施設等で技術継承はされるとのことであるが、実際の現場における技術継承が何より重要だと思う。日々の業務から、しっかりと技術継承をして欲しい。</li> <li>・職員の年齢構成が大きく偏っており、数年先には大量退職期を迎えるため、山積する経営上の重要課題に対応できるのかが心配されることから、ビジョンには将来的な人材育成の方針・取組をより丁寧に記載して欲しい。</li> </ul>	<p>職務を通じた技術指導に加え、体験型研修施設を活用して、管路の維持管理等に関する研修を実施するなど、長年にわたって培ってきた技術を次世代に継承します。また、今後の職員育成に係る方針や具体的な取組についての計画を作成し、着実に推進します。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間の公平性ってどういうことか。</li> <li>・企業債を減らす経営が非常に大切であり、財政基盤の健全化をしていくべきである。</li> </ul>	<p>本市の水道事業・公共下水道事業の財政に係る課題の一つとして、企業債残高(借金)の水準が高く、将来世代の負担が大きくなっている点が挙げられます。将来世代に負担を先送りすることなく、世代間の公平性を保つためには、管路や施設の更新のために必要な利益を確保したうえで、企業債に過度に依存しない事業運営を行っていく必要があります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい状況の中、コスト的に厳しい事業に対しては、何を優先するかとの視点での判断を行うことが必要だと思う。</li> <li>・大切で大変な仕事をされていることと思うが、公務員ということに甘えずに経営努力して欲しい。</li> <li>・人口減少社会を想定したうえで、長期的に安定した経営を行って欲しい。</li> <li>・まずは本業優先。限られた人的資源、物的・財政的な資源をいかに配分し、十分に活かすか、経営者としての視点が必要だと思う。</li> <li>・経営環境が厳しくなっていくことが見込まれるならば、文化や景観に配慮することよりも、老朽化した設備更新や耐震化に注力した方がよいと思う。</li> <li>・地球環境に配慮した事業運営も大切だと思うが、経営面をしっかりと考えて、過剰な設備投資にならないようにすべきだと思う。</li> <li>・これまで取り組まれた効率的な経営をより一層推し進め、安定した事業運営を望む。</li> <li>・いわゆる「ヒト・モノ・カネ」の視点をもっと明確にすべき。</li> <li>・今後、このままいくと、経営面で困難なことになるかと思うので、いどむの部分特に力を入れて未来へつなげて欲しい。</li> </ul>	<p>厳しい経営環境の中でこそ、水道・下水道の基本的な役割について、しっかりと責任を果たせるよう事業の優先順位をつけ、業務推進体制の効率化や財務体質の強化を図りながら、効果的・効率的な経営を進めます。</p>

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「関連事業」に目を向けることは決して悪いことではない。</li> <li>・今後の老朽化が進む管路の改築更新が必要であり、厳しい経営環境であることはよく理解できた。具体的な対応として、塩漬け土地の売却も含めた有効的な資産活用の方法等について検討を進めていただきたい。</li> <li>・水道の売上げが落ちていくので、太陽光や土地の賃料収入を増やすことをもっとすればいいのではないか。</li> <li>・太陽光発電を行っているが、採算は取れているのか。</li> </ul>	<p>新たな収入源として、組織再編により生じる空き施設等について、計画的に貸付・売却を行うほか、引き続き、浄水場や水環境保全センターにおける太陽光発電による売電、水道使用水量のお知らせ票裏面等を活用した広告等により、収入を確保します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の伝統産業である染色業に対して排水に関する助成を行うなど、産業が発展できるような行政にして欲しい。</li> </ul>	<p>本市では染色整理業に対する水道料金・下水道使用料の減免制度を実施しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年度、事業の振返りと改善をくり返し、経常収支を改善して欲しい。</li> </ul>	<p>これまでどおり、年度ごとに京都市水道事業・公共下水道事業経営評価を実施し、事業の点検・評価を実施します。</p>

## 6 その他

御意見要旨	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフラインを守ることに誇りをもって、日々の仕事を頑張ってもらいたい。</li> <li>・水道の水も、川の水もきれいになってきたように感じる。引き続き頑張ってもらいたい。</li> <li>・危機感を感じた。</li> </ul>	<p>市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を50年後、100年後の未来につないでいける次期経営ビジョンを策定します。</p>

(C) 今後の取組の推進に際して参考とするもの

## (C) 今後の取組の推進に際して参考とするもの

「次期経営ビジョンに反映するもの(A)」や「骨子案に記載済み又は趣旨に含まれているもの(B)」のほかにも、多種多様な御意見を数多く頂きましたので、御紹介します。これらの御意見につきましては、今後の取組の推進に際して、参考にさせていただきます。

### 1 骨子案全体，背景・課題

#### 御意見の要旨

- ・SDGs(持続可能な開発目標)の視点を入れてみてはどうか。
- ・何が新たな方向性なのか分かるようにしてはどうか。総花的に列挙されているため、何が進化したのか分からない。
- ・もっと水道と下水道の整合性を図ったほうがいいかもしれない。
- ・一部、上下水道局の責務範囲を超えた表現となっているので、見直すべき。
- ・伝統産業に優しい行政にして欲しい。
- ・議会があるのにパブリックコメントをする意味があるのか。

### 2 基本理念と取組の構成

#### 御意見の要旨

- ・基本理念に込められた想いとつながりが分かりにくい。
- ・「京の水からあすをつくる」という基本理念は大変よいと思う。絵本仕立てで分かりやすく説明するなど、工夫もしてはどうか。
- ・基本理念について、現行が「京の水をあすへつなぐ」、そして次期が「京の水からあすをつくる」で、「京」と「今日」そして「あす」とうまくかかっているが、変な技巧性を感じる。
- ・基本理念について、「あすをつくる」という文言からは、「守り続けられる」の考え方が結びつかないように感じられる。
- ・平仮名が多く、読みづらい。

## 3 視点 京の水をみらいへつなく

## 御意見の要旨

- ・水道の安全・安心の延長上に「おいしい水」の表現があってよいと思う。
- ・「水源（琵琶湖）から蛇口までの水質管理の徹底」に違和感を覚える。水源の琵琶湖は、「水質管理」できる対象ではない。「水源（琵琶湖）の水質監視を強化するとともに、浄水場から蛇口までの水質管理を徹底」ぐらいが、適切ではないか。
- ・下水の水質改善も必要だが、水源の琵琶湖の更なる浄化を進めることも、長い目で見ればコスト減につながるのでは。
- ・視点 「京の水をみらいへつなく」の、方針 ~ は、全て水道・下水道両方に対する記載が必要では。
- ・原水の琵琶湖、疏水路に異常が発生した場合に代替の原水確保（地下水、桂川等）
- ・淀川水系への放流には、使用者である市民の力が必要なことを強調してもよいのでは。
- ・「下水を確実に集めます」という表現に違和感がある。
- ・古い住宅には、未だ水道管が土管のままのところもあると聞くので、改修の指導をして欲しい。
- ・大雨が降ると、下水の水があふれる地域の下水処理や溝の掃除はまめにやって欲しい。
- ・上下水道局にはリーダーシップを発揮し、地域の集落排水も一体的に管理して欲しい。
- ・田舎は浄化槽のところもまだある。下水道整備ができるよう頑張ってもらいたい。
- ・上弓削は他の地域と下水処理が違うのか、分かりにくい。市民として、分かりやすい管理にして欲しい。
- ・排水に関する基準緩和等についても盛り込んで欲しい。
- ・浸水対策を上下水道局でやっていることを初めて知った。
- ・消防局との連携など、また VR を活用した災害時のシミュレーションなどを疏水記念館や疏水、浄水場、川（現地）で行うなどすると身近に感じるように思う。
- ・災害時の対策として、京都の昔ながらの井戸水を復活させて欲しい。
- ・ICT 活用の降雨レーダー情報や河川水位情報、下水道管内水位情報などを情報発信するのであればビジョンに記載して欲しい。

### 御意見の要旨

- ・南海トラフ地震が発生した時の対応を具体的に進めるべきと考える。
- ・自然環境の変化（頻発するゲリラ豪雨等）に、ハード対策だけでは限界があることだと想像する。その現実を市民にも認識してもらうため、はっきり表現されたら良いのではないか。
- ・雨水を飲み水として利用できる装置等を各貯留池に設置することが必要かと思う。
- ・3年前の台風18号で川の水があふれて大変な目にあった。川を大きくして欲しい。
- ・近年の大量の雨を下水ではなく、上水や別の用途に活用できるようなシステムの構築を検討しては。
- ・地下街や地下鉄等の入口には、止水板等を設置して、地上で浸水が発生しても浸水被害の起こらないことを積極的にやるべき。
- ・外国の方が多く訪れる京都で、水道の技術を世界に発信し、受信できる体制は良いと思う。
- ・節電や節水などの啓発はすべき。

## 4 視点 京の水でころはぐくむ

## 御意見の要旨

- ・上下水道事業について、いいことや理想の将来だけをPRするのでなく、最悪シナリオなども明らかにすることで、リスク喚起する必要があると思う。
- ・この前、若い方の対応が丁寧で良かった。昔と変わったと思う。続けて欲しい。
- ・図面の発行の手続きが煩わしいので、簡略化できないか。
- ・夏場は熱中症対策に水分補給の啓発活動をすべき。
- ・マスコットキャラクターを見直した方がいいのでは。
- ・蹴上浄水場や鳥羽水環境保全センターの一般公開の見直しはないのか。
- ・「下水道事業PRプロジェクトチーム」のポスターがいい。
- ・イベントなどは、本当に必要なことなのか、実際にどのくらいの費用を使ってどのような効果が出ているのか。
- ・視点 「京の水でころをはぐくむ」の表現は、京都市の「ころの創生」と上下水道事業との関係が分かりにくいいため、「期待にこたえる」の方が良いのではないか。
- ・「様々な手法による広聴活動」とあるが、「様々」という表現は「全ての」とか「完全な」などと同じくかなりあいまいな表現なので、「各種手法による広聴活動」程度の表現にした方が信頼ある経営ビジョンになるのではないか。
- ・琵琶湖のPRをして欲しい。
- ・電気やガスのようにネットやコールセンターでの受付をメインにして窓口を集約すべき。
- ・上下水道事業で水力発電などできないのか。
- ・食品廃棄物や木材廃棄物といったバイオマスを受け入れ、下水汚泥と共にメタン発酵させることについて是非検討して欲しい。
- ・消化ガスから水素ガスを取り出し、公用車、市バスを対象とした水素ガスステーションができたらいいと思う。
- ・舟に乗ってみたいが、子供でも安全なのか気になる。
- ・環境の取組もいいことだが、経営にプラスにならないといけない。
- ・視点 「京の水でころをはぐくむ」について、「“ころをはぐくむ”事業運営に努めます」というところが分かりにくい。
- ・100年以上の歴史を持つ琵琶湖疏水は、市民だけではなく、わが国にとっても近代化の成功例として貴重であり、全線を国の史跡や重要文化財の指定を受けるべき。

## 5 視点 京の水をささえつづける

### 御意見の要旨

- ・上下水道は市民生活への影響が大きいため、公営を維持して欲しい。
- ・方針 取組 の「京都ならではのオンリーワン組織」が分かりにくい。「創造性豊かな組織」や「挑戦し続ける組織」などではどうか。
- ・視点 方針 の「ささえる」は、視点 「京の水を支えつづける」と混同するので、別の言葉にした方がよい。
- ・「職員のキャリアプランの形成～」がビジョンに入っているのは妥当なのか。なくても良い気がする。
- ・16 ページの料金等の在り方については、世代間の公平性だけでなく、現在の利用者間での公平性も保たれるべき。
- ・将来世代まで上下水道事業は必要なものである。人口減少でも持続可能な体制を柔軟に構築して欲しい。
- ・50 年、100 年先を見据えたと言っているが、京都市に 100 年先が見えるのか。
- ・上下水道事業は地域独占で競争者がいないように見えるが、「本当の競争者は市民の皆さまの変化」なので、市民の動向を先取りすることが必要であると思う。
- ・水道料金を値上げしないで済むよう、新たなビジネスに取り組んではどうか。
- ・もうかる企業を目指して欲しい。
- ・水道料金を払える経済状況にあるにも関わらず、水道料金を滞納している人がいるならば、水道を止めることや、加算金も含めて強制的に料金を徴収するなど、毅然とした対応が必要だと思う。
- ・水需要の喚起や新たな増収策は、財務体質の強化が目的であることから、費用対効果を考慮して行うことを明記してはどうか。
- ・公共は雇用の確保も使命の一つであることから、直営をもっと増やすべきである。
- ・PFI 等の民間活力の導入は、本当にメリットがあるのか疑問である。

## 6 その他

### 御意見の要旨

- ・平成 31 年から元号が変わることを考えると、年号表記は西暦を基本とし、必要に応じて元号を併記する方が良い。
- ・京都市でもマンホールを売って欲しい。